

国連による情報社会世界サミット (WSIS) への参加に向けて

ここでは2003年と2005年に国連が計画している「情報社会世界サミット」(World Summit on the Information Society=WSIS)について世界キリスト教コミュニケーション協会(WACC)が発行するニューズレター、*Action* (2002年2月号)の記事を元にサミットの目標、活動の全体像を訳出し、なぜNGOが準備段階から積極的にサミットに参加することが必要であるかを示す。

開催時期と場所

第一回世界サミットはスイス政府が主催し、2003年12月10日から12日までジュネーブで開催される。情報社会における幅広いテーマを取り上げ、基本原則宣言と行動計画が採択される予定。第二回は2005年、チュニジア政府が主催、チュニスで開催される。さらに進展したテーマに焦点が絞られ、第一回からの実施状況を評価した上で、行動計画を採択する。

目的

- 1 包括的かつ公平な情報社会の確立をめざす原則と行動規則の宣言の採択
- 2 情報社会がもたらす機会を世界の人々が公平に享受するための提案および具体的施策を実施する行動計画の立案

取り上げるテーマ

情報社会インフラの構築とデジタルデバイス(情報格差)を解消するためのテレコミュニケーション、投資、テクノロジーの役割/情報社会への普遍的かつ公平なアクセスの実現/発展途上国のニーズの充足/情報社会が科学、社会、経済、文化的発展に対して持つ

意味/消費者保護、プライバシーとセキュリティ/文化的多様性とコミュニケーションする権利を反映する適切なコンテンツ/情報社会の倫理/労働者保護と職場におけるプライバシー/情報社会を形成する上での政府、民間企業、市民社会(NGO)の役割/共有財産としての情報(パブリック・ドメイン情報)/知的所有権と除外条項/表現の自由/テレコミュニケーション、インターネットアクセス料金に関する政策/教育変革の手段としてのICT/学びの環境: ICT, 教師、学習者、内容/労働者のニーズ。

サミットへの参加

今回のサミットでは初めて、各国首脳、政府、議会、国際機関、自治体、公共放送、民間企業、市民社会(NGO)の代表が集う。ジェンダー、環境、人口などをテーマとしたこれまでの国連サミットでは、主に政府関係者が公式行事に関わっていたが、国連は最近、市民社会(NGO)及び民間企業の直接参加を確立する機構を模索。この意味からも今回のサミットが情報社会における新しいガバナンスの道を開くだけでなく、将来的にグローバル・レベルでの交渉の実験の場としての役割を担うことが期待される。しかし、現状では、NGOの完全参加に反対している国もある。

WSIS(世界サミット)の運営

情報社会世界サミット(WSIS)はアナン事務総長の下に国連が企画し、国際テレコミュニケーション連合(ITU)が重要な役割を担う。2002年には一連の地域準備委員会が開催される予定。また、各国政府、国連機関、

民間企業、NGO 活動を含めた他の情報社会に関する会議や取り組みもサミットの準備段階で多様な情報を提供する。

参加することの意義

WSIS はメディア・情報技術に関する初めての世界サミットであり、NGO が主体的に参加し、経験を共有する機会を提供する。サミットが技術面ではなく、コミュニケーションの社会・文化・教育面に重点を置いている点はきわめて重要であるが、市民社会の担い手 (NGO) を欠いては、この点を十分に論ずることはできない。また、単にユーザーのニーズではなく、「情報社会の市民権」に重点を置くべきである。コミュニティ・メディアや公共放送にとってガバナンス、パブリック・ドメイン、法律の問題は特に関係する領域である。サミットは最終的に、メディアの透明性と多様性、メディアへの参加とメディアの公正性がいかに重要であるかを一般市民に気づかせるためのまたとない機会を提供する。

コミュニケーションの権利キャンペーン

(CRIS) の目的

サミットの準備段階に参加する方法は「情報社会におけるコミュニケーションの権利キャンペーン」(Communication Rights in the Information Society) に参加することである。CRIS の計画および目的は次の通り。

- ・市民活動における「情報社会市民権」とコミュニケーションの権利に焦点を絞る
- ・WSIS の議題に影響を与え、市民社会機構の共通の基盤を上げるため事前セミナーやディスカッション・グループを組織する
- ・NGO や公共メディアを育成していくための議題を WSIS で取り上げるよう提案する

CRIS とは

CRIS は 2001 年 10 月にコミュニケーション

の権利綱領により設立されたコミュニケーション分野に関わる NGO の世界的ネットワークである。コミュニケーション分野で主体的に活動を展開する約 20 の NGO から構成される。メンバーは WACC, 世界コミュニティ放送協会 (AMARC)、ラテン・アメリカ教育放送協会 (ALER)、プログレッシブ・コミュニケーション協会 (APC)、パノス研究所 (the PANOS Institute), カトリック・メディア協議会 (CAMECO)、the Evangelischer Entwicklungsdienst (EED) などである。

サミットに関する情報の入手先

WSIS 事務局 NGO 課 (the Civil Society Division) で入手可能。NGO がサミットの準備段階から全面的に関わる上で必要な事務資料や情報を提供。NGO に影響を及ぼす重要課題についてワークショップやセミナーの開催、NGO 参加者間のオンライン・ディスカッショングループの指導を行う。

詳細はサミットの公式ホームページ <http://www.itu.int/usis/> で。

国際テレコミュニケーション連合についての詳細は <http://www.itu.ch> (翻訳まとめ・高橋/宮崎)

— 『fctGAZETTE』 No. 77 (2002 年 7 月) 掲載 —